

第 37 回土木計画学研究発表会(春大会) : 2008.6.6~7(北海道大学)
 企画論文部門, 若手研究者論文部門 セッション討議内容の記録

セッション名 : 国際交通統計・データ	
日付 : 6月 6日 (金)曜日, セッション時間 : 14:00 ~ 15:30	
オーガナイザー・司会者名(所属) : 金子彰 (東洋大学), 渡部富博 (国土技術政策総合研究所)	
討議内容	<p>セッション全体 :</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種の統計やデータがあるなかで、どのような推計方法、集計方法でだされたものか、各種の単位や議論のあったトランシップ量など、統計量のカウントの定義もよく熟知した利用が肝要。 ・速報値の議論があったが、各種の統計の誤差などが何に起因するかもよく承知しておく必要がある。偶発誤差、構造的な誤差、シングルやダブルカウントといった定義の違いなどもあり。 ・多くのデータが多くの国、政府機関によって取得、公表されているが、わが国を含め相互の交流が重要であり、その仕組みを考えることが重要である。この点については、本セッション立ちあげの背景でもある「国際交通ネットワーク戦略研究小委員会」のデータに関わるWGでも引き続き検討をしていきたい。 ・統計データ・統計、さらには、地域間産業連関表の作成にも通じるが、精度向上のための手だてとして、実査（現地サーベイ）の有効性、活用などを今後もっと考える必要もある。
	<p>(発表番号) 発表者名 (所属) : (64) 小坂 浩之 (海上技術安全研究所)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日韓のコンテナ量の比較で、トランシップ貨物量が大きく違う点については、日本貨物と韓国貨物でカウントの仕方、トランシップと呼んでいる貨物のそもそもの捉え方が異なるからではないかなど、貨物の定義に関わる意見交換がなされた。
	<p>(発表番号) 発表者名 (所属) : (65) 神波 泰夫 (パシフィックコンサルタンツ (株))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長距離でも航空ではなく海運で運ばれる貨物、近距離でも航空輸送を選択するような貨物があるのではでないか、今回の分析ではそのようなところまで分析ができたのか、距離帯別や品目別などでの分析が重要ではないかなど、分析データ・結果に関わる意見交換がなされた。
	<p>(発表番号) 発表者名 (所属) : (66) 石川 良文 (南山大学)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回の分析におけるセクター分けの考え方についての質問があり、アジアや九州の I/O 表、コンテナ流動貨物調査などの部門を勘案した旨の説明があった。また、バルク関係の生産・消費地の分析に関し、陸上出入貨物調査 (国交省) が活用できるのではないかなど意見交換がなされた。
	<p>(発表番号) 発表者名 (所属) : (67) 赤倉 康寛 (国土技術政策総合研究所)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・港湾の統計は、データの収集の仕方がどのようになっているのか、同盟データは毎年使うには加盟船社が変わる可能性もあり使いづらいのではないかと意見があり、同盟によっては遡ってのデータの修正などの事例も見受けられる点など、海運・港湾のデータについて意見交換がなされた。
	<p>(発表番号) 発表者名 (所属) : (68) 辻本 勝久 (和歌山大学)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・航空旅客に関わる ICAO などのデータについて、誰が誰に報告している速報値か、速報値が確定値に変わるタイミングはいつか、購入時期などによっては昔のデータ部分がアナウンス無しに変更されているようなこともあるなど、速報値と確定値に関わる意見交換がなされた。